

校長室だより

No. 6

平成 27 年 5 月 15 日(金)

強く やさしく

六ツ美中部小学校校長

か とう よし かず
加 藤 嘉 一

行事で育てる ー体育祭ー

今週は、季節はずれの台風が心配されるなど、体育祭練習期間には教員泣かせの週でした。今、運動場で各学年が練習している様子を見ると、低・中学年は、踊ることが楽しくて楽しくてニコニコしている子供の姿や、高学年は、高学年のプライドをかけて緊張しながら歯を食いしばって演技を完成させようとする姿が見られ、見ている私がうれしくなってきました。年々涙腺が緩んできました。



【昨年の本校体育祭より】

昨年ある学校の運動会を見させていただいた折、先生も子供も長い時間をかけ苦勞して演技を作り上げてきたことを想像した瞬間、目頭が熱くなりました。

【本年度の学校テーマ】

- | | |
|---|---------------|
| 走 | 全力で走り抜き |
| 想 | 仲間を思いやる心を持ち |
| 創 | 体育祭をみんなで創りあげる |

本年度は、体育主任の鈴木智記先生にお願いをし、体育祭の学校テーマを考えてもらいました。本年度は、「走・想・創」です。とてもいいテーマであり、うれしくなりました。これは、私たちも子供たちも、「毎年ある行事」といった意識で行うようにはしたくないという私の願いからでした。子供たちも、この

願いを受け止め、今年の学びをしてほしいと思います。

学校では、行事を通して子供たちを育てたいと強く思います。競技種目のみを行う体育祭もありますが、本校が行う体育祭は、学年演技・競技や紅白対抗を通して、次のような教育的価値（ねらい）をもっています。

- | |
|--------------------------------------|
| ○走ることや表現活動、集団行動など、体育的技能・意欲を高めることができる |
| ○仲間と創りあげる充実感や仲間を思いやる心を育てることができる |
| ○がまんする力をつけることができる |
| ○係や役割をもち、責任ある活動をする機会となる |
| ○地域との連帯感がはぐくまれる |

など

こうした体育祭で、特に私が大切にしている言葉は、「**静と動**」です。子供たち

には、全校練習の始めの時に、「**体育祭を成功させるコツは、動かない時はじっと動かない。動く時には思い切り動くこと。**」と話しました。先ほど上げたねらいを達成するには、「静と動」を意識させることだと思うのです。

一人一人が持っているからだや筋力、心の成長は違います。しかし、体育祭当日は、先ほどのねらいの視点で、一人一人が昨年よりさらに一步成長した姿が見られれば、大成功だと思っています。

走

スタートラインに立った子どもの姿というものは美しいものだな
いいものだな
つゆをふくんだバラのつぼみのように
美しいものだな
ここには
勝ちほこったごう慢のかけらもない
敗残者の失意も卑屈もない
謙虚さと少しばかりの不安さと
露をふくんだようなみずみずしい希望と
未来にいどむものたくましが
ひとつになつて
ひとりひとりのなかで燃えている
スタートラインに立った子どもの姿というものは
いいな
美しいな
走っている子ども
最高に燃えている姿が
これだ
走力のちがいによって
一番があり 二番があり 三番があり・・・六番がある
でも それは
燃え方の序列ではない
一番も二番も三番も四番も五番も六番も
みんな
最高に燃えている火の玉だ
火はやっぱり美しい

しかし
ビリッコの子どもを見ていると
毎日 毎日
ビリッコばかりひきうけて走った
少年の日のかなしみがよみがえってくる
燃えても 燃えても どんなに燃えても
ビリッコの看板をおろすことのできなかった
少年の日のかなしみがよみがえってくる

ああ

あのビリッコの男の子は ニヤリ

決勝線十メートル前ところで笑った

みんなのビリッコをみる目に

抵抗しているのだ

へっちゃらだぞと

抵抗しているのだ

でも あれは

ビリッコの経験者以外にはわからない

悲しみの深さの表現なんだ

怠けている ふざけているなどと

思っただけはならないんだ

(この詩のつづきは次号に)

【東井義雄著作集 別巻3 培其根下 より】